

## 心理学

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 助教		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
担当教員	藤澤 美穂 助教		
対象学年	1	区分・時間数	講義 12時間
期間	前期		

### ・学習方針（講義概要等）

心理学は、「こころ」を科学的にとらえる学問のひとつであり、人間を探求する学問である。心理学では人間のもつ「こころ」の動きを理解するため、知覚・行動・感情などを対象とした実験・調査等がおこなわれ、また観察等を通じた人間行動解明へのアプローチがなされる。テレビや雑誌等で日常的に目にする「心理テスト」は、心理学から得られた知見をわかりやすく抽出したものではあるが、学問としての心理学においては、概念の定義、論理の整合性、科学的方法論等が重視され、より学術的で厳密な態度が求められる。

本科目においては、心理学の歴史に沿って、心理学における基礎と応用の両視野を学ぶ。また学習心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学、産業心理学、犯罪心理学および青年心理学の知見をもとに、「こころ」の働きと行動への影響を考える。

本科目の学修を通じ、独自性と多様性の尊重と、個人と社会の相互作用の理解を身に付けることを目指す。

### ・教育成果（アウトカム）

1. こころの科学である心理学の知識を幅広く学び、ものごとを心理学的視野により説明することができる。
2. こころと行動の理解を通して、個人・社会において生じる現象を相互作用的にとらえ、説明することができる。
3. 見えない“こころ”を理解するための多様な方法を学び、現象の背景を探求するための視野を会得できる。

（ディプロマ・ポリシー：1,3,4,5）

・到達目標 (SBO)

1. 学習や記憶のプロセスを心理学的視野から理解し、説明できる。
2. こころのありようを考えることを通し、人間理解の多様な視点を身につけることができる。
3. 個人と他者、個人と集団の相互作用について理解し、説明できる。
4. 自分の「こころ」への興味関心を高く保つことができる。

・講義日程

(矢) 西 101 1-A 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
4/14	金	3	人間科学科 心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	心理学とその歴史 1.心理学の誕生までの歴史を説明することができる。 2.見えない“こころ”へのアプローチ法について、述べるすることができる。
4/17	月	2	人間科学科 心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	心理学でいう「学習」について 1.心理学の「学習」の定義を述べることができる。 2.古典的条件づけについて説明できる。 3.オペラント条件づけについて説明できる。 4.行動主義とそれまでの心理学との関係について、述べるすることができる。
4/24	月	2	人間科学科 心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	認知心理学-特に記憶について 1.認知理論が重視されるようになった経緯を説明できる。 2.記憶のモデルについて説明できる。 3.Miller の直接記憶範囲について説明できる。 4.知覚的防衛について、説明できる。
5/1	月	2	人間科学科 心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	社会心理学の視点から「集団」を考える 1.認知的一貫性理論について、身近な例を当てはめ説明することができる。 2.同調行動について、説明できる。 3.服従行動について、説明できる。
5/8	月	2	人間科学科 心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	臨床心理学の基礎 1.臨床心理学の歴史を説明できる。 2.臨床心理学の4領域を述べることができる。

					3.欲求と葛藤について、説明できる。 4.愛着について、説明できる。
5/15	月	2	人間科学科 心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	働くことの心理学 1.職業性ストレスモデルについて説明できる。 2.バーンアウトについて説明できる。 3.ワーク・エンゲイジメントについて説明できる。 4.ワークライフバランスについて、自身の意見を述べるができる。
5/22	月	2	人間科学科 心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	犯罪行動の心理学 1.態度と行動の観点から、犯罪行動を説明できる。 2.犯罪場面誘引と場面形成について、説明できる。 3.Hirshi の social bond 理論を説明できる。 4.犯罪の生物学的要因に関する議論について、現在到達している知見を述べるができる。
5/29	月	2	人間科学科 心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	思春期青年期の理解 1.思春期と青年期の概念を理解し、述べるができる。 2.パーソナル・スペースについて、説明できる。 3.Sternberg の愛の三要素について説明できる。 4.恋愛にかかわる感情の動きを理解し、相手を尊重した関係の重要性を述べることができる。

・教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	図説心理学入門 第2版	齊藤勇（編）	誠信書房	2005
参	心理学ビジュアル百科 基本 から研究の最前線まで	越智啓太（編）	創元社	2016

・ 成績評価方法

試験の成績を 60%、提出物の評価を 30%、授業中に実施するワークへの取り組みを 10%として評価する。

・ 特記事項・その他

本科目は、一般的な講義に加えて、グループワークを適宜取り入れ、進行する。またコメントシート提出を求める回を設定する。  
グループワークの内容、コメントシートへ記載された内容、および提出物については、内容を踏まえ、翌回の講義で解説をおこなう。  
講義については、シラバスに記載されている授業内容を確認し、教科書及び毎回配布されるレジュメ等を用いて事前学修（予習・復習）をおこなうこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。

予習・復習のポイント

次週の内容として示された箇所を、教科書を中心に予習をすること。

復習については、興味がある箇所は図書館の文献などで調べること。

授業で紹介する書籍や論文、DVDなどは、心理学分野研究室にもそろっていますので、積極的に研究室を訪問してください。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料・教材の提示
講義	DVD (BR)プレーヤー	1	教材の提示
講義	書画カメラ	1	教材の提示
講義	デスクトップ PC (iMac21.5 ZOMP CTO Education)	1	講義資料の作